



令和4年度

## 茨城県優良図書紹介（小学校中学年向け）



### 『二平方メートルの世界で』

前田海音 文、はたこうしろう 絵(小学館)

ベッドの上の海音ちゃんは、ひとりぼっちで何を考えているのでしょうか？病気でなやんでいる人におすすめの本です。きっと生きる力がわいてくるはずです。



### 『みんなのためいき図鑑』

村上しいこ 作、中田いくみ 絵(童心社)

フ～、ハア～、ア～ア・・・、これは、いろいろな「ためいき」の音です。「たのちん」たちは、「ためいき」を集めたずかんを作っています。ひょっとしたら、あなたも「ためいきこぞう」に出会えるかもしれませんよ！



### 『ぼくちのねこのはなし』

いとうみく 作、祖敷大輔 絵(くもん出版)

動物を育てたことがありますか？この本に登場するねこの「ことら」は、人間でいうと80さいくらいのおじいちゃんねこです。動物を育てている家族に、ぜひ読んでほしい一冊です。



## 『先生、感想文、書けません！』

山本悦子 作、佐藤真紀子 絵 (童心社)

「読書感想文はにがてだなあ～」と思っているみなさんへ！この本は、感想文を書くとき、「おもしろかった」、「かなしかった」しか思いうかばない人のさんこうしょです。きっと、すてきな感想文が書けるとおもいます。



## 『トムと3時の小人』

たかどのほうこ 作、平澤朋子 絵 (ポプラ社)

小人の友だちがいたらどんなことをして遊びますか？ページをめくると、本の世界へ迷い込みます。そして、あることに気づいた人は、小人に会えるかも……。楽しくて、不思議なお話です。



## 『プーさんの戦争』

リンジー・マティック、ジョシュ・グリーンハット 文、  
ソフィー・ブラッコール 絵、山口文生 訳 (評論社)

あのクマのプーさんが、本当にいたことを知っていますか？ひとりぼっちの子グマが、せんそうを経験しながらクマのプーさんになるまでをえがいた、温かくて、かなしい物語です。



## 『どっちでもいい子』

かさいまり 作、おとないちあき絵 (岩崎書店)

自分の気持ちを人に言えず「どっちでもいい」が口ぐせのはるちゃん。とうとうクラスでも「いてもいなくてもどっちでもいい子」と言われてしまい……。少しずつだけ前を向き、成長していく主人公のお話です。



## 『きっと、大丈夫』

いまたあきこ 作、黒須高嶺 絵 (文研出版)

大好きなお兄ちゃんを事故で亡くし、かなしみにしずむ両親と咲良。亡くなったお兄ちゃんとの約束を守るためアゲハチョウの幼虫を育てていくなかで、家族も咲良も前を向いて一歩踏み出していく作品です。



## 『ヒナゲシの野原で』

マイケル・モーパーゴ 作、マイケル・フォアマン 絵、  
佐藤見果夢 訳 (評論社)

ヒナゲシの花を兵士にわたし、はげましを送り続けたマリ。いつしかヒナゲシの花は、せんそうによって命を落とした兵士へのついでというの意味に。次の世代へと平和をつなげていくことの大切さを描いています。



## 『31センチの約束』

嘉悦洋 文、ながん 絵 (西日本新聞社)

大切な親友が白血病になったことから、ヘアドネーションという活動を知った主人公。ケンカをしながらもお互いを大切に思い合う二人の女の子の友情と成長を描いた作品です。



## 『うまれてそだつわたしたちの DNA といでん』

ニコラ・デイビス 文、エミリー・サットン 絵、  
越智典子 訳、斎藤成也 監修 (ゴブリン書房)

DNA って、とっても不思議、同じなのに同じじゃないってどういう事でしょう？

みなさんも一緒に DNA の世界をのぞいてみませんか？